

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500156		
法人名	医療法人社団健亮会光銭医院		
事業所名	グループホーム杉の木別館		
所在地	上磯郡木古内町字本町52-1		
自己評価作成日	平成24年9月18日	評価結果市町村受理日	平成24年11月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500156-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、24時間医療連携が取れる体制を整えている
2、地域の食材、特に旬のものを利用して手作りの料理を提供している
3、介護が画一的にならないように個々の入居者様の個性を尊重した介護を行うよう心がけている
4、運動会や施設のお祭りなど家族参加の催しを行っている
5、踊りや吹奏楽など地域ボランティアによる催しを杉の木本館と合同で行っている
6、内装は地元の杉材を利用した落ち着いた雰囲気となっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR木古内駅から徒歩5分の所にある当事業所は、運営母体である医療機関の2階にあり、近隣に町立国保病院や健康管理センター・町立の老健施設と系列のグループホーム杉の木などが位置している。病室の部分を改築した1ユニットの事業所は、同棟に運営者の自宅があり、1階が医院となっているのが特徴で、地元の杉材を随所に取り入れた内装は温もりを感じさせている。事業所の運動会や杉の木まつりには、職員が手作りポスターを町内に提示し、家族や地域の方々の参加で盛大に行われている。渡島医師会の依頼で運営者が「もし家族が認知症になったら」の講演会を行った際には、スタッフが演じる寸劇を取り入れているのが好評で、他町村からの依頼が殺到しており、認知症の啓発につなげている。地域の中で、利用者がその人らしく安心して暮らしていくために、チーム一丸となり取り組んでいる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせるよう柔軟な支援を理念として掲げ施設内の見やすい所に掲示、職員だけでなく家族や来客の方々にも目に触れることができます。毎日の申し送りやホーム会議の中で再確認を行い実践に取り組んでいます。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を共有し、職員一人ひとりがケア目標を定め、ホーム会議の中で再確認し、実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には体調に合わせて参加しホーム主催の行事は案内を掲示し地域の方々の参加を呼びかけています。老健施設との交流や七夕やお祭りの行列などで町内の人達と交流など地域交流は少しずつ深まっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方々に認知症や介護に関する不安や相談などに対応できるようにしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	消防署や各種の方々に参加し様々な意見交換が行われるようになっていきます。それらを元にサービスの向上に努めていきます。	併設の事業所と合同で2か月毎に開催している会議は、議事録を各事業所毎に分かるように記録しており、改善されている。町担当者、家族と町内会長、消防署職員の参加があり、警察署にも参加を依頼するなど、地域の方々の意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回開催の地域ケア会議の他、会議の場以外でも介護保険課の方と連絡を取りサービスの向上、提供に取り組んでいます。	運営者は地域の方から相談される事が多いため、町担当者とは、常に情報を交換し合ったり、講師依頼を受託するなど協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束に関する講習や勉強会に参加し認識の共有を図り、事情により身体拘束が必要な場合には家族に相談し事情を説明した上で同意を得て同意書にサインを頂いた場合のみ行うことにしています。	外部研修会に参加した職員が講師となり、内部研修を実施し、職員は拘束による弊害を理解している。入居時にすでに胃瘻の手術をしていた利用者について、安全を考慮して家族の同意を得ながら、運営者(医師)の判断でミトンを短時間使用することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し勉強会(伝達講習)を行い、周知し身体的・精神的などの虐待を排除するように徹底しています。		

グループホーム 杉の木別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度の理解に努め必要とされるケースに遭遇した場合、それらの制度を活用するため関連機関と連携を深めるように体制を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、退所時は十分な説明を行い「じっくりご覧になって何かありましたら聞いてください」とお伝えしています。特に料金や起こりうるリスク、看取りの対応、医療連携について詳しく説明し同意を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に相談・苦情について家族に説明し意見や苦情がある時は運営者に報告、職員全体で改善に取り組み運営に反映しています。	家族との会話の中で、職員に名札の携帯についての意見があり、運営者と職員間、家族と話し合い、ロビーに職員の名前と写真を提示するなど、意見を反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は出来る限り職員同様、入居者の状態把握に努め、記録の確認、申し送りなどの意見、相談を聞き、全職員が周知できるように連絡ノートやホーム会議の場を活用しています。	1ユニットで、日々、家族のように生活している中で、職員はケアの対応の仕方、利用者の状態把握など、常に向上心を持ちながら連絡ノートやホーム会議で話し合い、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は定期的にホームを訪れ、入居者と過ごしたり、勤務の実態を把握し他に職員親睦の機会を設け、相談やアドバイスをを行っています。職員が日常的に学ぶことができるよう、資料や講習を開催をしたり、健康を保つための健康診断を実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望によりテーマを決め、事業所内研修を行っています。外部研修や報告会には勤務体制を変更して職員全員が参加できるようにしています。報告はレポートで提出、保管いつでも全職員が閲覧できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会で同業者と交流を図り施設訪問など行い質の向上に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に施設見学や本人と面談し状態の把握をするとともに本人の話を伺い、ご家族または関係機関の方に同席して頂き、情報を得るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が気軽にお話できるような環境を作るように心がけ、面会時にもお話しする機会を設け意見、要望を伺うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず本人の状態を報告し希望に添えるように病院受診、主治医の変更など様々な対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	希望のメニューを聞いたり、調理の下ごしらえ、調理方法や味見、後片付けや掃除、会話などともに生活していくことでお互いに支えあえる関係を共有していきます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	負担にならないように配慮しながら必要に応じてご家族にも協力して頂き、それぞれの役割を持って本人を支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会や馴染みの場所への外出など入所後も今までのように継続的な交流ができるように働きかけています。	運営者と管理者は、地元の出身者であり、利用者が従来利用していた町内の理容・美容室について把握しており、一人ひとりが馴染みのお店を利用している。東京から帰郷した家族や友人の訪問があり、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でお付き合いや会話ができるように気配りしています。お互いを気遣い、声を掛け合う場面も見られ、職員も一緒になって支えていけるように、日々の関係性の把握や情報の共有に努め、トラブルを未然に防ぐように配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方のお見舞いに行き、様子をお伺いしたり、退所された方のご家族より連絡が来たりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから声を掛け、表情や態度から希望や意向を確認しています。一人一人の思いを大切にし臨機応変に対応しています。	利用者がその人らしく暮らし続けるために、職員は常に寄り添いながら、本人の意向の把握に努め、困難な時は家族からの情報を得たり、職員は本人の視点に立って、意見を出し合い支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人、家族に出来るだけいろいろなことを伺い、入所後も面会時に話をしたり、昔話などをする事で以前の生活状況を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話、家族の話から生活歴、性格、意向を把握し生活リズム、心理面の変化は生活記録として記録、個人の全体像の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りの中やホーム会議内で介護計画のカンファレンス、モニタリングを行っており、本人、家族の希望を取り入れ次の計画に反映させています。	本人や家族の意見・要望や生活歴を取り入れながら、主治医と職員全員でカンファレンスし、担当者が現状に合った介護計画を作成している。毎日、職員が利用している「個人の生活記録ファイル」に計画書を入れ、一人ひとりのケアを確認しながら、実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれのファイルを用意し身体的、精神的状況他、暮らしの様子、本人の言葉を記録しています。その都度、情報交換や問題解決に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じて通院、買い物、美容室、外出、外泊など柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺施設やボランティアなど地域との様々な接点を見出せるように、協力の呼びかけを行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者(医師)の月2回の訪問診療と本人、家族が希望のかかりつけ医を利用することにより、家族、かかりつけ医、ホームでも報告、連絡、相談を密にすることで適切な対応を行っています。	自宅が事業所内にある運営者(医師)は常に利用者を見守り、近隣に町立病院があり、管理者が看護師という環境で家族に安心感を与えている。専門外の診察は町内は職員が代行するが、遠方は家族が受診に同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており常に主治医に報告や相談などすることで早期に対応ができ、また主治医、看護師がより細かく入居者の健康管理を行い、本人、家族が安心して生活を送れるようにそれぞれの状態に応じた支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師が付き添い、医師に必要な情報を正確に提供しています。また入院中も職員が見舞うようにし本人、家族、看護師から話を聞くことで現状を把握し退院後のケアに結びつこう、職員、家族間で連絡を取り合っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から主治医や家族、本人と十分に話し合いし方針を統一し状態に変化があるごとに報告、相談、出来る事、出来ない事を明確に説明した上で方針や支援の具体的内容を話し合っています。主治医、看護師が中心となり本人や家族の意向を踏まえ本人らしく過ごすためにチーム全体で話し合いし支援しています。	契約時に事業所として看取りに関する指針を説明し、家族の同意を得ている。終末過程において家族の思いを察し、再確認を重ねながら、看取りケア担当会議でアセスメントし、本人・家族の意向に添った支援をしている。4名の看取りを経験している事業所である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時廃止と看護師に連絡し迅速に対応が行われます。医師の指示の下、応急手当やAED講習会を開き、緊急時適切な対応が出来るように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が消防計画を定め毎月自主検査、防火訓練を行っています。非常時は職員連絡網の他、健康管理センターに連絡し非番スタッフ、センター職員も応援に来てくれます。	年2回消防署の協力を得て避難訓練・火災訓練を実施している。緊急連絡網には近くの住民や町職員の協力者を確保し、札幌で開催した避難時の搬送方法の講習会に参加したり、ネットで介護救護用移動マットを購入するなど、災害対策に対する意識は極めて高い。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心や羞恥心に配慮しプライバシーを損ねるような声かけや言葉遣いをしないように注意しています。個人の記録はロッカーに施錠して管理、職員採用時は個人情報に関する誓約を交わしています。	個人情報に関する使用・保護・利用目的などを家族に説明し同意を得ており、写真も一切外部に出すことなく、家族に送付し、職員は自尊心や羞恥心に配慮して支援をしている。新人研修では特に指導している項目である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で各自が自分で決められるような声掛けを行っています。食べ物や飲み物の好みやテレビ番組、雑誌、何をしたいのかなど表情や反応を含め、その人らしく過ごせるように支援していきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっていますが、その日、その時の体調や気分により、各自のペースに合わせた生活が出来るよう個別に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日のケアの中で身だしなみは本人の意思で行って頂き、天候や気温、室温や体調に合わせ助言していきます。		

グループホーム 杉の木別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員の好みを把握し個別のメニューを用意したり、希望を取り入れた献立作りなど楽しく食事が出来るよう工夫しています。下ごしらえや調理、味付けと一緒にに行い、後片付けは洗い、拭きを見守りで入居者が行っています。	地元生産者の名前入りの店で野菜を購入し、知人を懐しみ、家庭菜園で育てた野菜を食材にしている。一人ひとりの状態に合わせて、きざみ食やトロミ食を取り入れたり、誕生会には全員の利用者に手作りケーキを作るなど、楽しい雰囲気作りに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの食事・水分摂取量を毎日記録し職員が常に意識して毎日、献立を考えています。献立の栄養バランスをチェックし個々に食べやすい形態にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時のうがい、歯磨き、義歯洗浄は声掛けまたは介助を行っています。その際、口腔内の観察を行っています。寝たきりの方も口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は紙おむつを使用している方も日中はリハビリパンツを着用しトイレ誘導する事で排泄ができています。排泄パターンを把握するようにし誘導、排泄時には羞恥心に配慮し状態に合わせ快適な排泄が出来るよう支援しています。	排泄の自立は利用者にとって生活する意欲が見受けられるので、職員は一人ひとりのパターンを把握し、さりげない声かけや誘導・歩行介助に取り組み、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維質の多い食事、十分な水分補給、無理のない範囲での軽い運動など出来るだけ自然排便できるよう支援しています。下剤の服薬は主治医と連絡を取り量を調整し排便コントロールしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中、本人の希望する時に入浴できるようにしています。バイタル測定し健康面でも異常ない事を確認してから状態に合わせ介助しています。	お風呂好きの利用者が多く、希望するといつでも入浴できる体制を整え、会話や歌を歌いながら楽しい入浴に取り組んでいる。左右に移動できる浴槽と寝たきり用のストレッチャーが入る広い洗い場で、職員の負担の軽減も考慮し、清潔感のある浴室である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できないのはそれぞれに異なった理由があり、日中の活動を通して不調や不安感を無くしゆっくり休めるように支援しています。また室温や灯りなども気を配り調節をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者毎に薬箱を用意、氏名日付食前食後など記入し、3重のチェックを行い飲み忘れや誤薬を防止しています。それぞれの処方ファイルで確認でき職員が服薬内容を把握できるようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれにあった役割を生活の中から探し出し、できる事があればそれをお願いし、感謝の言葉を伝えていきます。		

グループホーム 杉の木別館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は散歩に出かけたり、ご家族と一緒に外出や、地域のお祭りやイベントにも足を運んでいます。	天気のよい日は、知人に声をかけながら散歩したり、家庭菜園では野菜やお花を育てている。運営者の運転するリフト付きバスでの遠出のドライブには家族の参加もあり、外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望で大半の入居者のお金は施設で厳重な管理を行っていますが、少額なら出来る入所者は家族と相談の上で自己管理してもらうなど個人の能力に合わせた金銭管理の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で出来ない方にはプライバシーに配慮した上で職員が代行で電話をかけたり、代筆して手紙を書いたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に季節に応じた飾り付けを行ったり小物を作成したり植物の世話をしたりと穏やかに過ごせるように心がけています。トイレや浴室はいつも清潔に使用できるように配慮しています。	広く長い廊下は、クッション入りフローリング建材を使用し暖かく、利用者の機能訓練の場となっている。引き戸とドアを組み合わせた居室の入口は、ベットやストレッチャーを移動する時に便利に工夫しており、フロアの飾りが季節感を表し、家具の配置も家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に共有空間を利用したり、自室で過ごしており職員はさりげない見守りを行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなじみの物を用意してもらうようお願いし本人、家族と相談の上配置している。施設からベッドと引き出し、床頭台などを貸し出して配置しています。	居室は在宅当時使用していたテーブル・椅子・昔の柳こりなどが持ち込まれ、趣味の手芸品や家族の写真が飾られてあり、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや居室入り口に目印をつけたり、食事は高さの違うテーブルを用意したりとそれぞれに合わせた環境作りを行っています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 杉の木別館

作成日：平成 24年 10月 31日

市町村受理日：平成 24年 11月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	少しでも多くの所に外出できるように計画を立て実行していたが、今まで以上に外出の機会を増やしていきたい。	入居者様が楽しいと感じられるような場面を増やすために外出する機会を増やす。	今年以上に、ホームの花畑や家庭菜園を増やし、手入れや収穫出来るように、外出の機会を多くする。	春から秋
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。